

令和6年5月

第13回 G20首席農業研究者会議（MACS）の 結果概要について

1. 5月15日から17日に、G20首席農業研究者会議（MACS）がブラジルにおいて開催され、我が国からは堺田研究総務官（代表）、小山（国研）国際農林水産業研究センター（JIRCAS）理事長、他が出席しました。
2. 会議では、堺田研究総務官から、
 - ① みどりの食料システム戦略に係る取組、食料・農業・農村基本法の改正やスマート農業技術活用促進法案に係る審議状況や、
 - ② 日本の国際共同研究として、インドとの雑穀研究を開始することや「コムギいもち病」に係る共同研究の成果など
についての紹介を行いました。
これに対し、各国会議出席者からは、気候変動問題や持続可能な農業に係る日本の貢献に対する賛同が示されました。
3. 共同声明（コミュニケ）については、カナダの提案等により議長総括及び成果文書となりましたが、当該文書の調整においても、
 - ① 世界的な気候変動対策には、イノベーションが不可欠であるとの我が国の認識が維持されるとともに、
 - ② コミュニケへの我が国の意見提案について、米国等各国の賛同を得ることで提案のとおり修正されるなど
我が国の認識や主張を適宜行い、議論に貢献しました。
4. この他、ブラジルの農業研究機関（エンブラパ・セラドス）へ訪問及び意見交換を行い、先方からこれまでの日本の協力に対する感謝が示されるとともに、引き続き日本とブラジルの研究機関同士の協力関係を維持することの重要性を相互に確認しました。

